

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

日本の文学や文化について、その原点である京都で学びたいという気持ちが強く、

「フィールドワークができる京都の大学」というところに絞って志望大学を決めました。

御所の隣と立地が魅力的なことに加え、オープンキャンパスで丁寧に案内して下さいた学生さんにも憧れたからです。

- (2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

6月までは学科の行事との両立が難しく、受験生という自覚もあまり無かったので、

入試に向けての勉強には取り組めていませんでした。しかし、英単語は早めに覚えた方がいいという先輩の話を聞き、ターゲット1900を全都手書きで単語カードを作り、学校の行き帰りに歩きながらみて覚えていました。

〔夏休み〕

集中して勉強するために図書館に通うことにしました。同じ学校の話したことがない人や中学校の友達もいて刺激を受けました。始業式のテストに向けて、古文単語や英単語ターゲット1900を最初から最後までしっかり覚えました。

日本史は毎日1時間するくらい程度で、夏休み後半からは英語を中心にしていました。ただ単語ばかりしていたので文法ができておらず、夏休みの間にはおけばよかったと後悔しました。

〔2学期～入試直前〕

クラスメイトのほとんどが推薦入試で進路が決まっていた中で、自分はどの大学にも行けないのではないかと精神的にかなり追い詰められていました。

10月半ばの入試対策講座を受け、ベリタスアカデミーのアプリでもう一度英語を勉強し直しました。

日本史は11月の公募推薦が終わったあから本格的に取りかかりました。一般入試まで2か月しかなく焦りました。自分なりに考えて年号11頁に家中に貼って場所で見ると、細かい年号を全覚えなくても並び替え問題が簡単に解けるようになりました。

冬休みは早寝早起きを心がけ、年明けからは過去問を1日6、7つずつ6年間分全て2周解きました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は1度11月の公募推薦に落ち、1月の一般前期で合格しました。ずと行きたかった大学だったので絶対に諦めたくはありませんでしたが、もう無理だろうという気持ちはかなり大きかったです。

でも、そう思うと吹切れて無理なら無理でいい。という気持ちになり、少レ楽になりました。

また、受験勉強中睡眠時間はとても大切です。私は22時就寝、4時半起床でランニングをしてから勉強に取りかかりました。外が真っ暗の中2時間勉強し、休みの日は7時半から過去問を解き始めていました。

それからオープンキャンパスには行ける日は全て行き、大学への気持ちを再確認していました。受験直前も学生さんに勉強法を教えていただきました。応援もいけて、受験当日もお話して下さった学生さんをイメージして臨みました。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験当日が近づくとつれて、もっと早くからやっておけばよかったと思うことも

多くあるかと思いますが、私はそんなことはわかりませんでした。でも、そう自分で気づけた時が一番早い時です。“そのときにできることを精一杯頑張ろう”と意識して、

毎日大切に過ごして下さい。応援しています！！